

ピブリア

発行 いわき市平上荒川字長尾30
福島工業高等専門学校
編集 図書館委員会
昭和61年3月3日

No. 59

福島高専 図書館報

◇ 巻頭言 ◇

近時雑感

土木工学科教官 佐藤 恭輔

このところ、新しい若者たちを「新人類」とか、「異星人」とか称する若者論が隆盛し始めているようである。それらの中でとらえられている若者の特徴についてキーワード的に示すと、短縮型の言語、マンガ文字、軽快さ、おしゃれ、自由気まま、ドライで繊細、耐性の欠如、無気力、機械親和性、対人困難性等々さまざまであるが、「新人類」とかいうことばは、最初はこれらの特徴を通して警世的な意味あいから使われだしたもので、旧世代の多数派は「飽食時代の甘え」とみなしている。一方、高度成長期が幼児期にあたる「新人類」を自称するエッセイストたちの若者論も次々に現われている。その多くは、いわゆる大人たちの理解のしかたをそのまま認め、負の尺度からの解放を図っていて、むしろその特徴に「すがすがしい希薄さ」「ある種のリアリティー」を感じとろうとしているようである。

私が十何年か学生達とつきあった経験からは、学生の特徴は大して変化したようにも感じてはいないのであるが、いずれにせよ、若い学生時代にやっておかねばならない大事なことは昔も今も変わるものではないと思う。その一つは、じっくりと広い意味での感性を磨くこと、物事に感動する体験を重ねておくこと、あるいは純粋な物の見方を養うことである。焦って大人のまねをしたところで、消耗することが多く、残るものは少ないものである。

数学とか物理とかの問題を苦勞しながら解くことによって得られる感動もあれば、クラブ活動の

練習で汗を流し試合に勝って得られる感動もある。また読書を通じて、作中人物の生き方あるいは著者の考え方に共感し熱中するのもその一つであろう。

読書に関しては、いまだき初めから人生訓を得ることを目的として本を選ぶことも少ないと思うし、どんなに偉い人が薦める本であっても、数ページ読んでみて退屈しか感じなかったらサッサと止めるのが良い。無理して読むのは時間の浪費である。最近は書物が氾濫しており、本屋に足を運んでも目移りしてしまうことも多いが、どんな本であっても作中人物の生き方にリアリティを感じた時、あるいは知的好奇心を満足するような考え方に会った時には時を忘れて読んでしまうものである。落ち込んで滅入っている時などは新刊図書目録をみて、内容を連想し読書意欲をかきたてたりするのも気分転換に良いこともある。

もう一つは読書に多少は関係のあることであるが、作文力を身につけることである。社会人となっても報告文の作成等文章を書く機会は多いと思う。感銘を与えるような文章を作る訓練は是非とも必要である。今、私は文章を書くたび毎に、思うことがうまく表現できずに大変苦勞している。若い頃あまり読書をしなかったツケが回ってきているのかと後悔することしきりである。

若い時に得た感動は、きっと将来、意気に感じて仕事をしていく上でバネになってくれるものと思う。

目

次

巻頭言	1	学生卒業研究一覧	15
読書随想	2	新着図書目録	19
後輩に勧める本	5		

三浦哲郎と三好京三

機械工学科教官 淡 路 英 雄

学生の中には「こいつはしょうのない奴だ」と思いつつながらも妙に惹かれる者がいるのと同じく、作家の中にも「もっといい作品を書いてくれ」と思いつつも、読むのをやめられない作家がいる。私にとってそのような作家とは、三浦哲郎と三好京三である。特に三浦哲郎は、それ程好んでいるわけでもないのに、つきこそは良い本であって欲しいと思いつつ、ついつい新しい本を買わされてしまう作家である。

三浦哲郎は、「忍ぶ川」で文壇に登場し、「笹舟日記」「拳銃と十五の短篇」などの短篇小説によって、その地位を築いてきた作家である。彼の魅力は、ありきたりに言うと、その描写の新鮮さにある。ときどき、ハッとするような新鮮な描写に出会う。そのたびに、その場の情景が、花火に浮かぶ人影のように、脳裏に描き出されるのである。

さらに、三浦哲郎に惹かれる個人的な事情をいえば、それは、彼とは同郷人であるということである。彼の作品の中に、私の育った八戸地方のなまりや風俗がいたるところに出てくる。故郷を離れた者にとって、故郷のなまりは郷愁そのものである。なまりを聞くと、故郷の景色がいつべんによみがえる。

その様なわけで、私は、三浦哲郎の作品を初期の頃から読み進めてきた。彼は私にとって、一人の作家の作品を系統的に読んだのはじめての人である。一人の作家の作品を年代順に追いかけて読むということは、作風の変化や進歩の跡がわかるような気がして、いっばしの批評家気取りにさせてくれるものである。

彼の随筆「おふくろの筆法」が、私の娘の教科書に載っていた。それを発見したとき、私はなぜかホッとした。私のひいき目ではない、彼の本物の良さが世に認められていると感じたからである。そういえば、最近読んだ「白夜を旅する人々」という作品は、何回目かの文学賞を得ていた。もはや彼を、しょうのない作家と評することはできないのかもしれない。

三好京三は、岩手県北部の、やはり八戸に近い、昔風にいうと、南部藩の在の出である。彼は少し前まで教師をしていた。そのため、教育に関係したものを主に書いているが、作品の数はまだ少ない。「子育てごっこ」で直木賞をうけて、作家生活にはいった人である。他に、「俺は先生」「娘はばたけ」などがある。避地で教育に携わってきた彼の教育観には共感を覚えるものが多い。

私の父も、一時期、北海道の山中で、避地教育に情熱を燃やしていたことがあった。43才で亡くなったが、父の書棚にあった、ベスタロッツ、国分一郎、鈴木道太などという教育者の名前は、いつの間にか私の子供心に刻まれていた。三好京三の作品の中に、そのような教育者の名前が出てくることがある。すると、登場人物と父の姿とが重なって、ひとしおのなつかしさがあふれ出てくるのである。

三好京三の作品には、三浦哲郎ほどの文学性はないが、内容には気概を感じる。三好京三と私との結びつきは、教育はどうあるべきかという考え方の共鳴ではないかと思っている。

するめの本

工業化学科教官 大 沢 英 一

「ビブリア」には毎回毎回、多くの先生方よりいろいろな読書評が披露されている。各種の専門書の紹介や読書論など、学生の皆さんは読書が必要なことが理解できてもなかなか読書に取り掛かれないことでしょう。丁度、「人間性豊かな技術者」になるためと自覚して高専に通っていても、毎時間の授業が充実し、毎日が楽しくて仕方ないという御方は多分いないであろうと同じように。

読書はしばしば精神生活における食物として例えられる。ここで話題にする本(雑誌)は読書というにはおこがましく、食物に例えるならば、主食副食に遥かに遠く、おやつとしても腹の足しにはならない代物で、チューインガムのようにただ口を動かすだけである。ただ、チューインガムのようにすぐ味がなくなるものでなく、最初は味がなくても噛むほど(時間が経つほど)味がにじみ出てくるするめが最適であろう。

「日本国勢図絵」は財団法人矢野恒太記念会で編集され毎年6月に刊行されている。文字通り日本の国勢について各種の統計を図や表で示したもので、筆者は1965年版から所持している。古いものから保存しておくことで各種の産業の変化の様子をたどっていくことができる。「機械工業」の項では時代が下るにつれて話題となるものがカラーテレビ、電卓、コンピュータ、MC、VTR、ロボットなどと少しずつ変わり、一方、「化学工業」の項では肥料、染料、プラスチックなどで変化がなく、化学が地盤沈下したことを窺わせる。

化学の希望の星としてファインケミカルがいわれ新素材等が話題にされるが、化学の復権がなされた暁にはこの統計の中にも見るようになるであろう。想像もしないものでは「豆類・雑穀・いも類」の項ではかつて(1970年まで)は粟やひえのようなものまで農林省の統計に取られていたのである。この本の統計は手際よくまとめられ、かつ幅広い分野にわたっており、A5版の大きさ500ページほどで保存も楽である。

「エコノミスト」は毎日新聞社より出されている週刊紙で、文字通り経済関係を中心にした雑誌である。ここに昭和43年10月20日号がある。GNP世界第2位といわれた時であるが、全体に日本の明るい未来を感じさせる記事となっている。これを出発点として現在まで並べてみると「公害列島」「ニクソンショック」「オイルショック、未来を展望できない」「産業構造は少エネルギー型へ転換すべきだ」「日本を引っ張っているのは多エネルギー型産業」「円高」「第2次オイルショック」「技術革新時代・軽薄短小」へとかわっていく。おもしろいところで電卓の広告を見ると43年では(ルートも計算できないのに)26万円もしており、その中身も「宇宙開発を除き、利用可能な技術をもつ民間企業は世界で数社」の<モス>ICを用いたのである。45年では一桁一万円を切って闇魔様もびっくり。50年頃からは現われなくなる。

読書とは言えないような本でも年月の経過とともにするめのように味が滲みでてくるものもある。どこに味がでているのかと思う人も多いでしょうが、学生諸君も自分の口では味を感じることができるであろうと思うするめの本を自身で探し、10年20年後に改めて眺めて見るとよいであろう。



ソフトウェアと著作権

一般科教官 黒 沢 和 人

コンピュータ・プログラムの権利保護を目的とした「著作権法の一部を改正する法律」が、本年1月1日から施行された。したがって、今後プログラムは思想を創作的に表現する著作物とみなされ、著作権(複製権・貸与権・翻案権等)や著作者人格権(公表権・氏名表示権・同一性保持権)によって守られることになった。

ソフトウェアのうち仕様書やマニュアルといったものは、技術思想を表現する著作物であることは明らかであり、問題はプログラムについての解釈である。当初通産省はそれを著作物とは認めず、全く新しい法律(プログラム権法)によって保護しようとし、文化庁の主張と真っ向から対立した。しかし、この議論は、メインフレーム・メーカ、ソフトウェア・メーカ、さらにはIBMやATTといった国外企業の思惑ともからんで結局受け入れられなかったといういきさつがある。したがって、ソフトウェアのニーズが多様化し流通も拡大する一方で、依然多くの問題が山積みしており、ここではそのなかから2つの問題を取り上げてみることにした。

第1は、コピー・プロテクトに関する問題である。ソフトウェア・メーカは企業利益を守るためにプログラムを公表しながら、多くの市販ソフトウェアにプロテクトをかけている(コピーを防止するための細工を施すこと)。我々にとって、プロテクトをはずすことはむしろ楽しくスリルあるゲームのようなものであるが、一面それに対する罪悪感を感じることも事実である。だが、「私的な目的のため」や「事故による破壊から守るためのバックアップのため」のコピーの権利が認められ、明文化されていることは知っておくべきであろう(第30、35、47条)。

また、無断複製に対するソフトウェア・メーカの異常とも思える執着振りは、ソフトウェアの自由な試用、買い取り、売り戻しを困難にし、なかなか粗悪品が淘汰されないという悪循環を生んでいる。さらに、この影響は単にソフトウェアの品質の問題に止まらず、ネットワーク上で自由にファイル転送ができないとか、電気的な通信手段で売買決済ができないため、流通の費用と手数が膨大になるなどの不都合を生じ、遂には、国外のコンピュータ・メーカに複製権を逆手に取られ、日本

ビブリア 59

コンピュータ産業全体がアメリカの大手企業の世界戦略に呑み込まれるのではないかという圧迫すら受けるようになっていく。

第2に、著作権の帰属の問題である。現在日本では40万人からのシステム・エンジニアが不足しているといわれる。実際、システム・エンジニアの仕事はきつい仕事であるが成長産業でもある。各種プラントやシステムの設計の中心はこうした上級のコンピュータ要員が当たっている。だから、高専でも優秀なシステム・エンジニアの養成を考える必要があると思う。企業の側でも、プログラマ、オペレータ、キーパンチャといった初・中級のコンピュータ要員は安価な労働力として逐次補充できる仕組みになっているのに対し(昨年国会で可決された「人材派遣法」がこのことを保証している)、システム・エンジニアの確保には特に力を注いでいる。ところが一方、今回の法改正では、法人としての著作権の保護はあっても、プログラムを開発した個人には保護が与えられそうにはなっていないのである(第15条)。すなわち、これまで培ったノウハウが他の場所ではなかなか活かしていくという状況が出現しつつある。

いずれの場合も、今後エンジニアはより広い視野とより深い専門性を身につけ、社会での発言権を高めてゆこうとする努力が必要であることを物語っている。



無線遠視法

電気工学科教官 山崎 数彦

大正時代も末の頃というから60何年か昔のことである。「ラジオ放送が遠くから無線で声が送れるならば映像だって無線でやれる理屈ではないか」と考えて、それに「無線電視法」と名付け、この考えにとりつかれていた人が居た。この人は最近『テレビ事始』……イの字が映った日……という本を著した高柳健次郎氏である。氏は明治三十二年に静岡県浜松市で生れた。今でいう「おちこぼれ」と言ってよいような目立たぬ影のうすい小学生であったが、機械への好奇心は極めて強かったという。そして尋常小学校時代に二度にわたって「無線」との出会いを経験していることが伏線となり、その後の進路が展開してゆくのであった。家が貧しく尋常小学校を卒業して薬屋へ奉公するはずであったのが、区長さんが波る父親を説得してくれたおかげで高等小学校に進むことになった。さらに静岡師範学校に進んで勉強するが、真空放電の実験を見て一層強く電気に関心をもつ。こゝが第二の転機となり、原子、原子核についての物理学的な研究の道へ進みたいと思うように変化するのであった。しかし、さらに進んだ東京高等工業学校では「日本の国を富ませ将来発展させるためには、工業をさかんにしていかなければならない」という工業立国論を繰り返して教えられる。そして物理学の研究に生きることは断念して、電気を応用して何か世のためになることをやるのだと腹を決めたのであった。当時、大正の半ばはラジオ放送が始まりそうだという噂が聞かれるようになった頃とある。そのような状況下で、東京高等工業学校でまじめに電気工学を学び身につけて、具体的な研究テーマを捜そうとした。神奈川県立工業学校に就職した後もテーマ捜しは続けられ、ついに外国にまで行くことになる。

テレビジョンというものは一八七六年に電話を発明したグラハム・ベルも考えていたと言われる。声が電線を伝わって遠方で再生して聞くことができるのであれば、絵がさしかわって動くように、景色を遠方に送って再生できるのではないかと連想をはたらかせ、一生懸命に考えた。しかし具体化の余りの難かしさに諦めてしまっていた。

大正十二年、高柳先生はフランス語の雑誌に一枚のポンチ絵の「未来のテレビジョン」を見たのであった。これを見て非常に驚き、かつ、ヨーロッパ

パの研究者は必ず何かをやりはじめているにちがいない、と考え、非常に難しいがやってみようと思決心した。

大正十五年には世界で始めてイの字を映し出すことに成功し、昭和十年には全電子式テレビを完成した。

戦後は日本ビクターに入社し、テレビ技術の高度化、VTRやビデオデスクなどの新技術の開発に指導的役割を果たされた。

昭和五十五年文化功労者となり、五十六年には文化勲賞を受賞されています。

「テレビ事始」は生涯をテレビ開発に尽くされた高柳先生の先見性、ねばり強さ、ひたむきな努力、がひしひしと感じられる本である。又、六十年にわたる研究開発をとおして留意されたことを述べ

ておられる。求める心があるところにチャンスが与えられること、プロジェクト・チームが皆で協力して大きな成果を得るようその力を結集することの大切さを力説しておられる。

実社会に出て放送局におけるテレビ放送の業務に、その後、メーカーでカラーテレビ受信機の研究開発に従事した経験を持つ私は、周辺技術の進歩あるいは工業界の動向をにらみながら、タイミングよく新技術を製品化することの難かしさをあらためて思い出しつつ、一気に読み通した。

将来、工業界での活躍を期待される本校学生諸君には是非熟読することを推奨したく筆をとりました。

（「テレビ事始」昭和61年2月20日刊、本校図書館にあり。分類548.8T）

後輩に勧める本

図書委員会では、昨年に引き続き、卒業を目前に控えた五年生諸君に「後輩に勧める本」のアンケートを実施しました。

五年間の読書を振り返って心に残った本が推薦されています。先輩の顔を思い浮かべながらリストをたどると食指の動く書名に行き当るのではないのでしょうか。読書のきっかけとして活用を期待します。

◆ 機械工学科

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
阿部能則	雑学大事典	小松左京 監修	角川文庫	おもしろい
〃	俺が天下をとる	藤波辰巳	ワニ文庫	怒り爆発
〃	魔太郎が来る	藤子不二雄	秋田書店	暗い
伊藤宏	魔の牙	西村寿行	角川文庫	人間の極限状態
〃	蘭菊の狐	西村寿行	光文社	感動
小笠原宏一	ただ栄光のためでなく	落合信彦		男の友情とロマン
〃	癌病船	西村寿行		人間の生命の尊さ
〃	牛馬解放ち	西村寿行		良かった
大泉武久	哀愁の町に霧が降るのだ	椎名誠	情報センター	読み始めたらやめられないノ
大浦信洋	荒野の叫び声		岩波文庫	野性本能が目覚める
〃	銀河鉄道の夜	宮沢賢治		神秘的・幻想的である
大竹俊弘	竜馬がゆく	司馬遼太郎	文春文庫	} 沢山の登場人物が面白い
〃	三国志	吉川英治	講談社文庫	

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
面川 寿彦	日本—その姿と心—	新日鉄 能力開発部	学生社	将来役立つかも知れない
“	日で見える「手相」占い	川合 英公	ナツメ社	占い師になれるかも？
“	彼のオートバイ、彼女の島	片岡 義男	角川文庫	W3を知らない人に
加藤 久也	三国志(一～八)	吉川 英治	講談社	雄大なドラマ
“	知的生活の方法	渡辺 昇一	講談社	生き方を学べる
木村 義則	KGB	フリーマントル	新潮社	これがソ連
“	汝怒りもて報いよ	西村 寿行	角川	読んで見ろ
“	21世紀の演出者たち	落合 信彦	集英社	現代の真実
菊地 克典	恐怖省	堀 晃	集英社文庫	現役の技術者が書いた 超ハードS・F
“	太陽風交点	堀 晃	集英社文庫	“
“	ハイスピード、ライディング	キース・コード 著 小川ヨーコ 訳	グランプリ出版	より速く、より安全に
熊谷 正道	西ドイツ車はなぜ世界一か	田中 重弘	講談社	車好きなら……
“	超音速漂流	トマス・ブロック	文春文庫	日航機事件を思わせる スリル
“	盗まれた空母	トマス・ブロック	文春文庫	スケールがでかい
小泉 恵一	鬼女哀し	西村 寿行	徳間書房	人間の理性と本能
佐々木 陽	ただ栄光のためでなく	落合 信彦	集英社	感動！
“	二〇三九年の真実	落合 信彦	集英社	ケネディ暗殺の真実
“	第四の核(上)(下)	フレデリック・ フォーサイス	角川	超一流のサスペンス
佐藤 智	男の作法	池波 正太郎	新潮社	男をみかける
佐藤 秀二	美味しんぼ		小学館	おもしろい！
“	BE FREE	江川 卓也	講談社	おもしろい！
佐藤 肇	吸血鬼はお年ごろ	赤川 次郎	集英社文庫	おもしろい
坂本 秀樹	航空事故	柳田 邦男	中公新書	技術者となる貴方に
“	バイクテクニック入門	金谷 秀夫	交通タイムス	速かつ安全に
“	株入門	安田 二郎	講談社	
鈴木 幸成	時計じかけのオレンジ	アントニー・バ ージェス	徳間	
“	往きてまた還らず	西村 寿行	角川	
“	さらば愛しき人よ	レイモンド・ チャンドラー		
高橋 恭嗣	戦士の挽歌 1～3	大藪 春彦	角川	男なら

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
高橋 恭嗣	むそうめくらまし	西村 寿行		男はえらい
中根 孝志	笑うな	筒井 康隆	角川文庫	おもしろい
永井 修	打たれ強く生きる	城山 三郎	日本経済新聞社	社会へ出る際に役立つ
野田 冬彦	独和辞典			絶対に必要
"	システム工学		講談社	
萩原 克利	人狼シリーズ	平井 和正	角川ノベルズ	CIA対狼人間の抗争
"	クラッシュジョウシリーズ	高千穂 遥	ハヤカワ文庫	宇宙を駆けめぐるショウ
"	幽霊塔			推理小説の古典
平野 幸雄	ガラス玉演戯	ヘ ッ セ	新潮文庫	おもしろい
"	振動工学入門	渡辺 敏夫	パワー社	買わされる
"	六法全書			憲法の裏をかく
緑川 祐二	たけしくん、ハイノ	北野 武	太田出版	自分が幸福に思える
馬上 幸一	平将門(上, 中, 下)	海音寺 潮五郎	角川	男の生き方がわかる
"	片隅の二人	曾野 綾子	新潮	感動
"	彼女が風に吹かれた場合	片岡 義男	角川	大人の恋愛がわかる
武藤 芳彦	滅びの笛	西村 寿行		人類に対する警鐘
矢部 信彦	ムーンライト 夜間飛行殺人事件	西村 京太郎	光文社	旅にこの一冊がいい
山川 茂	風と夢・オンザロード	藤原 審爾	角川文庫	おもしろいぞノ
"	ミステリー列車が消えた	西村 京太郎	新潮文庫	おもしろいぞノ
"	ポビーに首ったけ	片岡 義男	角川文庫	おもしろいぞノ
山野辺 英雄	石中先生行状記	石坂 洋次郎	新潮	読んでおもしろい
山本 勲一	罪と罰	ドストエフスキー	岩波文庫	一読の価値あり
吉田 勝年	Be-Bup-High school	きうちかずひろ	講談社	笑える
"	日本機械学会誌		日本機械学会	
吉田 宏幸	青が散る	宮本 輝	文芸春秋	とてもいいです
"	赤い館の秘密	A. A. ミルン	創元社	かなりいいです
"	トレント最後の事件	E. C. ベントリィ	早川書房	なかなかいいです
若菜 一也	零式戦闘機	柳田 邦男	文春文庫	零戦を設計者の立場から見る
"	アイアコッカ	リー・アイアコッカ	ダイヤモンド社	クライスラーを立て直した偉大な男

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
若菜一也	生徒諸君	庄司陽子	小学館	読んで損はないノ
涌井立志	白熱	田中光二		現実にあること
"	熱気球イカロス5号が飛んだ			胸がスカッとした
渡辺勇人	隠された十字架	梅原猛	新潮文庫	おもしろいと思う
"	空海の風景	司馬遼太郎	中公文庫	おもしろいと思う
"	ロボット博士の仏教入門	森政弘	PHP研究所	ためになると思う

◆ 電気工学科

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
今田生男	グイン・サーガ	栗本薫	早川書房	雄大なヒロイックファンタジー
"	怒りの大洋	田中光二	角川	ポリティカル・フィクションの決定版
"	デジタル信号処理	電子通信学会	電子通信学会	デジタルを知りたい人へ
遠藤英典	徳川家康	山岡荘八	講談社文庫	暇があったら読むべし
太田実子	鳥の物語	中勘助	岩波文庫	大人の鳥の童話集
"	歯と爪	ビル・S・パリンジャー	創元文庫	ミステリーの最高傑作
大谷浩樹	長いお別れ	レイモンド・チャンドラー		奥の深い推理物です
国井博之	絵で見る剣道			とてもわかりやすい
木幡勝徳	失われた文明	A・ゴルボフスキー	講談社	
"	ビールを楽しむ本		新潮文庫	楽しめます
駒木根智	試験にでる英単語	森一郎	青春出版社	英検2級はこれで十分
"	試験にでる英熟語	"	"	"
"	試験にでる英文法	"	"	学生の常識
佐藤真一	秘法ヨガ入門	藤本憲幸	大陸書房	これで超人になれる
"	旧訳聖書の大予言	宇野正美	徳間文庫	世界最終戦争は近い
"	続・霊界からの大予言	太田千寿	日本文芸社	人類絶滅をさける方法
佐藤清侍	微積分のはなし(上・下)			微積分のつまらない人に
佐藤利光	宮本武蔵	吉川英治	六興出版	日本人なら読めノ
"	隆元・先端技術に挑む	細川隆元 牧野昇	集英社	科学技術がよくわかる
佐藤俊彦	わかるドイツ語[基礎編]		三省堂	独語はこれで完璧ノ

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
佐藤俊彦	猫の首	小松左京	集英社	SFホラー
"	恐怖コレクション	阿刀田高	新潮社	恐いエッセイ集
志賀幸恵	半導体デバイスの基礎	岸野正剛	オーム社	説明がていねい
"	さすらいの甲子園	高橋三千綱	角川文庫	何度読んでも楽しい
"	敦煌	井上靖	新潮文庫	はるかなるシルクロード
鈴木隆夫	破戒	島崎藤村	新潮文庫	感動ノ
"	湾岸道路	片岡義男	角川文庫	軽い気持ちで
"	小説帝銀事件	松本清張	講談社文庫	S 21年「帝銀事件」の小説化
鈴木康寛	銀河ヒッチハイクガイド	ダグラス・アダムス	新潮社	ハチャメチャな内容
"	きまぐれ暦	星新一	新潮社	興味ある話題多し
高橋哲生	こころ	夏目漱石	角川文庫	
"	廃礦にて	渡辺淳一	角川文庫	
"	津軽	太宰治	新潮文庫	
中山幸一	驚異の時間活用術	糸川英夫	PHP文庫	ためになる
"	芸能界本日も反省ノ色ナシ	ダン池田	はまの出版	芸能界は汚い
永山和郎	悪の行動学	高島穰	三笠書房	まあまあ面白い
野崎茂	坑夫	夏目漱石	新潮文庫	人間の性質が鋭く描かれている
橋本喜孔	幻夢戦記レダ		講談社	ファンタスティックノ
"	星新一の本全部	星新一	新潮社	短篇なのであきない
"	機動戦士ガンダム	富野よしゆき	朝日ソノラマ	人物描写がすばらしい
蛭田幸男	天北原野	三浦綾子	新潮文庫	愛とは何か考えさせる
"	すばらしい数学者達	矢野健太郎	新潮文庫	数学の面白い話
"	野火	大野昇平	新潮文庫	戦争の悲劇
福家広之	水と原生林のはざままで	シュバイツェル	岩波	偉い人です
"	インターフェース		CQ出版社	ハード関係の応用版
藤田正彦	織田信長	桑田忠親	角川文庫	タメになる
"	大都会	森村誠一	角川文庫	企業要請の前にくずれる青春の友情
本多守	応用物理ポケット・ブック	E.インゲルスタム S.ショーベリー	培風館	あると何かと便利です
"	彼のオートバイ、彼女の島	木下是雄 片岡義男	角川書店	映画化されます

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
本多 守	河よりも長くゆるやかに	吉田 秋生	小学館	おもしろい
村上 新一	塩狩峠	三浦 綾子	新潮文庫	美しく感動的
〃	八甲田山死の彷徨	新田 次郎	新潮文庫	実話
〃	冬の旅	立原 正秋	新潮文庫	考えさせられる
谷津 淑夫	痴人の愛	谷崎 潤一郎	新潮文庫	人生の教訓とせよ
山野辺 康徳	スターウォーズ, ジュダイの復讐	J・カーン	カドカワ洋書	解説つきで読み易い
〃	アンデルセン童話集			素朴な感動
横川 一哉	マノン・レスコー	アベ・プレヴォー	新潮社	ロマンチック 情熱的愛
〃	日はまた昇る	ヘミングウェイ	新潮社	恋愛と情熱
渡辺 和幸	優雅な悪事	佐野 洋	集英社文庫	おもしろい
〃	二十一歳の父	曾野 綾子	新潮社	おもしろい
〃	三四郎	夏目 漱石	岩波文庫	おもしろい
渡辺 好勝	てきばき生きる	加藤 諦三	大和文高	自分が見えてくる
〃	郷愁	ヘッセ	新潮文庫	不朽の名作

◆ 工業化学科

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
浅岡 正己	生きること学ぶこと	広中 平祐	集英社文庫	
薄羽 幹雄	HOT-DOG PRESS		講談社	人生のためになる本
〃	POPEYE		マガジンハウス	おしゃれな本
大津 浩一	What's Michael?	小林 まこと	講談社	
大河内 浩幸	パフォーマンス人間の時代	佐藤 綾子	青春出版社	ほほー
〃	人間における自信の探究	櫻木 健吉	K.Kベストセラーズ	読んで自信が0になる
〃	悪の愛情論	小池 真理子	角川文庫	こんなのあんのけ 世界は広い
大森 靖	初秋	ロバート・B・ パーカー		少年の自立
〃	約束の地	〃		男と女
〃	告別	〃		出会いと別れ
荻野 京子	化粧品のパイオ	西川 勢津子	集英社文庫	きれいになれるかな?
〃	侍従長のひとりごと	入江 相政	講談社文庫	文章がかたい

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
樫村純子	家族八景			ただ単に面白い
鴨光次	やさしい麻雀の点数計算	田代竜真	永岡書店	簡単に覚えられる
佐藤信二	三国志	吉川英治	講談社	中国史の雄大なロマン
"	過去を運ぶ足	阿刀田高	新潮文庫	ブラックユーモア
"	フランス白粉の謎	エラリー・クイーン	ハヤカワ文庫	作者との勝負
三戸乙彦	気分はグルーピー	佐藤宏之	秋田書房	おもしろい
"	ブリーズ・Mr・ ジョックマン	"	秋田書房	おもしろい
志賀正道	科学技術の最前線	三田出版会	ダイヤモンド社	利口になれる
"	黄色い風土	松本清張	光文社	
"	超高真空がひらく世界	小宮宗治	講談社	あ～ 読めノ
椎名忍	徳川家康	山岡荘八		歴史のスケールを感じる
田代寛	不忠臣蔵	井上ひさし		ウラ話集である
平子文枝	赤毛のアン	モンゴメリ	新潮文庫	少女が大人になる過程
"	なぜ愛	ばば こういち	二見書房	感動します
玉川武史	友情	武者小路実篤		感動した
塚原隆	宮本武蔵(1～6)	吉川英治	講談社	長い面白い
坪井浩征	塩狩峠	三浦綾子	新潮文庫	
仲野崇行	憂鬱なる党派	高橋和巳	新潮文庫	知識及び知識人の崩壊
"	夢の逃亡	安部公房	新潮文庫	価値感が変る
"	飼育	大江健三郎		人間のオゴリ
新妻洋美	恍惚の人	有吉佐和子	新潮社	老人の再認識が必要
"	悪女について	"	新潮社	文章・構成が面白い
"	金魂巻	渡辺和博	主婦の友社	おもしろいです
根本隆行	昨日悲別で	倉本聡	理論社	すごく感動した
畠裕敏	昨日悲別で	"	理論社	
平間裕之	ベトナム伝説	遠藤みちろう	宝島ブック	ベトナム万歳
"	破戒	島崎藤村		純文学の真価です
"	泉谷しげるが作品集	泉谷しげる		彼の全てが解る
平松和子	源氏物語(1～10)	円地文子	新潮	現代風で読み易い

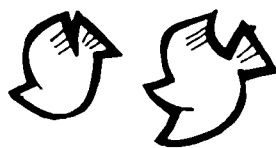
先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
蛭田友喜	コスモス	カールセーガン	朝日新聞社	ためになる
"	宮本武蔵	吉川英治	講談社	おもしろい
"	北の海	井上靖	新潮文庫	おもしろい
松本進	三姉妹探偵団	赤川次郎		暇つぶしに最適
"	Young Guitar			好きです
宗像則明	二十歳の原点	高野悦子		考えさせられる
"	宇宙博覧会	筒井康隆		おもしろい

◆ 土木工学科

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
間芳彦	麻雀放浪記	阿佐田哲也		生きるパワー
"	ハレー彗星の秘密			
"	土佐日記	紀貫之		すごい!
荒川光伯	高熱隧道	吉村明	新潮社	是非読んでみては
"	まぼろしの橋	三浦哲郎	文春文庫	
安藤博美	のたり松太郎	ちばてつや		スモウのロマン
移川俊英	あぶさん	水島新司	小学館	感動もん
"	セメント化学雑論		セメント協会	為になる
遠藤文義	満ちて来る潮	井上靖		
小野満基	土木学会誌		土木学会	読んでおきたい一冊
折笠照美	諸君!この人生大変なんだ!	山口瞳	講談社	
"	豊臣家の人々	司馬遼太郎	角川文庫	時代がよくわかる
"	ルパンの告白	モーリス・ルブラン	新潮文庫	面白い
柿沢卓司	白鯨	メルヴィル		面白い
"	青春の門	五木寛弘		
影山雅紹	樅の木は残った	山本周五郎	新潮社	私が初めて感銘した本
"	徳一菩薩	菊地勇	オーエシス出版	いわき市の古仏教
"	ガリア戦記	長谷川博隆訳	筑摩書房	
佐々木弘光	松下電気がソニーを叩き潰さない理由	上之郷利昭	光文社	もう一つの日本経済

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
佐々木 弘 光	間違いだらけのクルマ選び	徳大寺 有 恒	草思社	厳格批評が好評
〃	美味しんぼ	雁 屋 哲 花 咲 アキラ	小学館	食コミックの決定版
佐 藤 勉	道路橋示方書・同解説	日本道路協会	丸善	あなたも橋の技術者
〃	土木学会誌		土木学会	おもしろいノ
〃	汚れた英雄	大 藪 春 彦	角川文庫	夢中になる本
佐 藤 正 一	人材殺しの時代			
〃	Urban Planning Theory	Melville, Branch	Dowden Hutch Ross, Inc	都市計画の勉強に
酒 井 博 之	幻獣少年キュイラ(シリーズ) 6 巻	夢 枕 獏	ソノラマ文庫	早く7巻を読みたい
三 瓶 宣 和	土木工学ハンドブック (上・中・下)	土 木 学 会	技報堂	全部読めば公務員
下山田 孝 志	レビン・トレノを100% 乗りこなす本		山海堂	AE86に乗りたい人に
庄 司 正 一	フレンド			人とは何か……
〃	間違いだらけの車選び	徳大寺 有 恒	草思社	車を買う時参考になる
〃	美味しんぼ	雁 屋 哲 花 咲 アキラ	小学館	思わずヨダレが…
鈴 木 喜代一	ゴキブリ刑事	新 岡 勲	芳文社	正義は勝つ
〃	土木学会誌		土木学会	
〃	私の青春	河 源・鈴 木		為になる
武 田 富士夫	匠の時代	内 橋 克 人		全科に関連した内容
〃	生徒諸君	庄 司 陽 子		理想的の学校生活
〃	システム工学	唐 津 一		技術者必読
高 木 久	都市生活者のルールブック	TYOカンパニー	ごま書房	都会に住むためには
〃	風の歌を聴け	村 上 春 樹	講談社文庫	古き良き時代が楽しめる
〃	LED ZEPPLIN (天国への階段)	リ ッ チ・ヨーク	シンコ・ミュージック	新しい音楽観がひらける
高 橋 弘 光	Be-Bop-High school	きうちかずひろ	講談社	とにかく笑える
高 萩 俊	理科系の作文技術	木 下 是 雄	中公新書	
豊 田 勝	こころ	夏 目 漱 石	新潮社	もう一度読んでみては
〃	たけしくん、ハイノ	北 野 たけし		人生甘くはない？
中 條 正 典	AURA LEGEND	片 山 敬 濟	講談社	
〃	土木工学ハンドブック		土木学会	
新 妻 和 洋	海拔0メートル	曾 野 綾 子	集英社	ラッキー、ロッキー

先輩の氏名	書名	著者名	発行所等	短評
新妻和洋	吸血鬼はお年ごろ	赤川次郎	集英社	あー面白かった
〃	タッチ	あだち充	小学館	1~20巻発売中、 勉強になる
増子裕一	プロ	かわぐちひろし		勉強になる
元木洋	土木学会誌		土木学会	ためになる
本木淳一	土木図書館図書目録		丸善	おもしろい
〃	水害	宮村忠	中央公論社	たまにはこういう本も
矢内友則	蒼い時	山口百恵	集英社	
山田幸一	汚れた英雄(全4巻)	大藪春彦	角川文庫	ハードボイルドは大藪
〃	土木工学ハンドブック		土木学会	土木技術者必携
吉沢信之	雪国	川端康成		
吉田伸明	出世を急がぬ男たち			入試・就職試験に落ちた時最適



II 昭和60年度学生，卒業研究一覽

◆ 機械工学科

研 究 題 目	学 生 名	指導教官
液体窒素の過渡沸騰曲線	阿部 能則, 加藤 久也	佐 藤(新)
正方形断面を有する折れ曲り流路内の流れの可視化	伊藤 宏, 平野 幸夫	中 山
ロボットハンドの設計製図	山本 勲一	石 垣
銀メッキによる応力測定	飯島 秀之, 熊谷 正道	佐 藤(顕)
新設道路の騒音予測	小笠原宏一	渡 辺
メッキ法による応力測定に関する研究	大泉 武久, 緑川 祐二	佐 藤(顕)
疲労亀裂伝播特性試験	大浦 信洋, 吉田 宏年	淡 路
銅メッキによる応力測定法に関する研究	大竹 俊弘, 永井 修	佐 藤(顕)
マイコンによる境界要素法	増子 卓哉	佐 藤(憲)
メタノール, ガソリン混合燃料を用いた火花点火機関の圧縮行程中におけるポリトロープ指数	面川 寿彦, 小泉 恵一	窪 田
熱応力破壊	矢部 信彦	淡 路
板による低周波音の遮音	木村 義則, 鈴木 幸成	渡 辺
渦巻ポンプの性能特性について	高橋 恭嗣, 武藤 芳彦	中 山
パソコンによる機械製作図の三次元グラフィック化について	菊地 克典, 山野部英雄	石 垣
メタノール, ガソリン混合燃料を用いた火花点火機関の燃焼過程の考察	佐々木 陽, 緑川 直樹	窪 田
真空式ソーラコレクタの試作	佐藤 智	佐 藤(新)
低周波音の遮音量測定	佐藤 秀二, 鈴木富士夫	渡 辺
騒音振動インテンシティ計測	中根 孝志	渡 辺
	佐藤 肇, 坂本 秀樹	
	馬上 幸一	
	大桑 晴彦, 若菜 一也	
	涌井 立志	
	野田 冬彦, 山川 茂	
	萩原 克利	
	渡辺 勇人	

◆ 電気工学科

研 究 題 目	学 生 名	指導教官
デジタルフィルタとその周辺回路の設計・製作	今田 生男	山 崎
音声合成	遠藤 英典, 渡辺 好勝	渡 辺(喜)
圧電板のエッジ振動とその応用に関する研究	太田 実子	渡 辺(博)
圧力センサを用いたマイコンによる機械制御	太谷 浩樹, 村上 新一	大 沢
BIT機能がアベイラビリティに及ぼす影響	角田 勝美	春 日

研 究 題 目	学 生 名	指 導 教 官
半導体による熱電特性	国井 博之	鴨 沢
パラメトリック発振を利用した定電圧電波の試作	能谷 好市, 横川 一哉	岡 沼
ブリッジ結合磁路を用いた変圧器の解析	小磯 和弘, 永山 和郎	岡 沼
IEC587法による有機絶縁材料のトラッキング性の検討	小幡 勝徳	鴨 沢
純水製造装置	駒木根 智	岩 間
高結合圧電ストリップにおける幅縦振動に関する研究	佐藤 真一	渡 辺(博)
フォトレジストについての研究	佐藤 清侍, 野崎 茂	岩 間
信 頼 性	佐藤 利光	春 日
重力直接発電装置に属する諸研究	佐藤 俊彦, 松川 啓一	大 沢
ICの製作	斎藤 茂	岩 間
高分子材料の耐トラッキング性	志賀 幸恵	鴨 沢
マイクロコンピュータの設計製作I-バス制御に関する考察・検討ー マグネトロンスパッタ装置の試作とその導体及び圧電体膜作成 への応用	鈴木 隆夫 鈴木 康寛, 本多 守	村 田 渡 辺(博)
PCMオーディオ・プロセッサの試作	高野 一彦, 渡辺 和幸	渡 辺(喜)
デジタルセンサーを用いたマイクロマウスの試作	高橋 哲生, 横田 哲也	春 日
IECS87法において電極間の電位分布の実験的検討	中山 幸一	鴨 沢
センサ(仮題)	橋本 喜孔	村 田
PLLを用いたPM検波	蛭田 幸男	山 崎
AD変換器によるサンプリングとその誤差に関する研究	福家 広之	村 田
ステッピングモータ	藤田 正彦	村 田
DIA変換器による関数発生器	谷津 淑夫	山 崎
ステッピングモータ制御回路駆動回路の製作及びその制御	山野辺康徳	山 崎

◆ 工業化学科

研 究 題 目	学 生 名	指 導 教 官
酸化亜鉛微細結晶表面に吸着した炭酸ガス及び酸素の定量	浅岡 正己,	伊 藤(宏)
ポーラログラフ法によるCo(Ⅲ)と硫酸イオン及びシュウ酸イ オンとのイオン会合定数の決定	有馬 和久, 石井 博 宗像 則明	高 橋
エステル交換反応における触媒活性~酢酸金属化合物の混合触媒~	伊藤 彰洋, 薄羽 幹夫	伊 藤(正)
極性カラムの研究	猪狩 成子, 大津 浩一	小 林

研 究 題 目	学 生 名	指 導 教 官
大気粉塵中における芳香族炭化水素の分析	遠藤みゆき	
トリフルオロメチル基を有するヘミンの合成及びアポミオグロビンとの再構成	小川 恭正	青 柳
植物中における金属化合物の構造解析	大河内浩幸, 橋本 琢爾	引 地
小麦に含まれる重金属化合物の単離と研究	大森 靖, 志賀 正道	引 地
化学物質の検索を行うデータベースの作成	折笠 光代	大 沢
C言語による分子充填モデルの作成	萩野 京子	大 沢
連続変化法を応用した混合溶液の電導度測定による錯陽イオンとシュウ酸イオンとのイオン会合定数	樫村 純子, 田代 寛	高 橋
マンガンノジュールの硫酸浸出	鴨 光次	伊 藤(宏)
成型能を有する耐熱性高分子の合成	佐藤 信二, 佐藤 雄三	井 上
イネ中の重金属有機化合物の抽出単離	三戸 乙彦	引 地
抗癌剤の抽出とタンパク定量	椎名 忍	金 田
ヘビネゴザの重金属有機化合物の抽出, 単離, 構造解析	平子 文枝, 玉川 武史	金田, 引地
成型能を有する耐熱性高分子用のモノマーの合成	塚原 隆, 松本 進	井 上
国指定天然記念物大ウナギ生息地質沼水質調査	坪井 浩征	伊 藤(宏)
散気式曝気槽内における液流速分布の測定	仲野 崇行, 平間 裕之	大 沢
エステス交換反応における触媒活性-エチレングリコールと水の影響	新妻 洋美	伊 藤(正)
植物中における重金属有機化合物の構造解析	根本 隆行	金田(引地)
ペルフルオロアルキル基を有するピロール及びポルフィリンの合成	畠 裕敏, 柳内 俊	青 柳
ロジウム(III)ポルフィリンの合成及びアポミオグロビンとの再構成	平松 和子	青 柳
セリウム系ガラス研磨剤の研究	蛭田 友喜	伊 藤(宏)

◆ 土 木 工 学 科

研 究 題 目	学 生 名	指 導 教 官
高炉スラグを添加した流動化コンクリート耐久性	阿部 和之	志 賀
鉄筋コンクリートばりのAE特性に関する基礎的研究	阿部 好則	山 ノ 内
鉄筋コンクリート床板と鋼床板の経済的適用支間に関する研究	間 芳彦	土 居
プレテンション部材におけるPC鋼材の付着特性について	荒川 光伯	志 賀
PCグラウトの一般的性質について	安藤 博実	志 賀
アルカリ骨材反応 (X線分析)	移川 俊英	志 賀

研 究 題 目	学 生 名	指 導 教 官
地盤の振動応答解析のプログラム作成と検討	遠藤 文義	佐 藤 (恭)
PCグラウトの低温特性について	小野 満基	志 賀
動的応答解析による衝撃係数の検討	大橋 修	根 岸
高炉スラグを使用したPCグラウトの特性	折笠 照美	志 賀
三辺測量と二本の対角線を有する四辺形測量との比較・検討	柿沢 卓司	高 波
街づくりの、核としての商業開発のあり方	河原 努, 酒井 博之	高 橋 (邦)
後方交合法の2点法・3点法に関する実験研究	影山 雅紹	高 波
伝達マトリックス法とマトリックス変位法の解法特性の比較	草野 雄一	根 岸
構造物の地震波による応答解析と減衰定数の検討	佐々木弘光	根 岸
上路プレートガーダー橋の床組の適用範囲について	佐藤 勉	土 居
都市イメージからの都市魅力度に関する研究	佐藤 正一, 斎藤 衛	高 橋 (邦)
CADシステムによる橋梁計画 (Part II)	三瓶 宣和	土 居
アーチ橋の経済的ライズスパン比	下山田孝志	土 居
模型斜面の振動特性	庄司 正一	佐 藤 (恭)
いわき市地盤資料のデータベース化の試み	鈴木喜代一	佐 藤 (恭)
家庭内廃棄物のコンポスト化について	武田富士夫	橋 本
メッシュ分析による中心市街地の再開発に関する研究	高木 久	高 橋 (邦)
土構造物の簡便法による地震時変形量の予測	高橋 弘光	佐 藤 (恭)
コンクリートの圧縮強度とAE特性	高萩 俊	山 ノ 内
地方都市の立地企業に関する研究	豊田 勝, 中條 政典	高 橋 (邦)
MCIモデルによる商業立地適地に関する一考察	新妻 和洋, 丸子美喜男	高 橋 (邦)
PC鋼材の付着特性について	増子 裕一	志 賀
アルカリ骨材反応の研究	元木 洋	志 賀
斜面の地震時安定に関する実験的研究	本木 淳一	佐 藤 (恭)
高炉スラグ粉末を添加したコンクリートの物理的特性	矢内 友則	志 賀
コンクリートの破壊過程とAEスペクトルの関係	山田 幸一	山 ノ 内
数種の高次近似はり理論の特性と相互関係について	吉沢 信之	根 岸
鉄筋コンクリートばりのAEスペクトル特性	吉田 伸明	山 ノ 内

新 着 図 書 目 録

今印は図書館 他は各教官の研究室に
所在するものを分類別受人欄に記載

総 記

- 朝日新聞縮刷版 60-9-11 朝日新聞社
福島民報社縮刷版 60-8-11 福島民報社
住宅地図 いわき市四倉久之浜大久・小川他
寺島良安
和漢三才図会2 東洋文庫 451 平凡社
伊勢貞丈
貞文雜記3 東洋文庫 450 同
坂本敬司
図書館とコンピュータ第2版
日本図書館協会
早川喜代次他
写真でみる金澤戦争 新人物往来社
野田又夫
人類の知的遺産36 ロック 講談社
小野武精一
新訳漢文大系26 書経下 明治書院

哲 学

- 久保 勉
大思想文庫1 プラトン国家論 岩波書店
三木 清
" 2 アリストテレス形而上学 同
成野融一
" 3 旧約聖書 同
石原 謙
" 4 新約聖書 同
出 陸
" 5 プロテノスエネアタス 同
岩下社一
" 6 アグスチヌス神の国 同
黒田正利
" 7 ダンテ新曲 同
村二九郎
" 8 マキアヴェリ君主論 同
朝水三十郎
" 9 デカルト省察録 同
安倍隆成
" 10 スピノザ倫理学 同
阿部良夫
" 11 ニュートン自然哲学の数学
的的原理 同
河野興一
" 12 ライブニツ单子論 同
宮澤俊義
" 13 モンテスキュー法の精神 同
木村竜二
" 14 ルッソ-民約論 同
大島正徳
" 15 ヒューム人生論 同
中山伊知郎
" 16 スミス国富論 同
天野貞祐
" 17 カント純粋理性批判 同
和辻哲郎
" 18 カント実践理性批判 同

- 茅野肇々
" 19 ゲオエテファウスト 同
桑木敏賢
" 20 フィヒテ知識学 同
矢崎美彦
" 21 ヘーゲル精神現象論 同
田辺寿利
" 22 コント実証哲学 同
小泉 丹
" 23 ラマルクダーウィン動物哲
学論の起源 同
高橋 徳
" 24 ミル功利主義 同
山田勝次郎
" 25 マルクス資本論 同
立澤 剛
" 26 ニイチェフアラフストラ
同
Gerard Reedy
The Bible and Reason
U. of Pennsylvania Press
Notis
Robert Parsons, S. J., and the Counter
Reformation in England 紀伊国屋

歴 史

- 佐藤有文
地球外文明の遺産-超古史史の謎-
新人物往来社
金子民雄
ヘアイン伝-偉大なシルクロードの探検者-
同
八尋舜右
人物日本史おもしろ百貨店 同
岡本隆三
意外史中国四千年 同
村山 善
奇蹟の国イスラエル 古今書院
茨城大学地域総合研究所
関ヶ浦-自然歴史社会- 同
林 英夫他
近世古文書解説辞典 柏書房
大島良行
アメリカ・ウェスタン辞典 研究社
国史大辞典編集委員会編
国史大辞典6 吉川弘文館
正井泰夫
アメリカとカナダの風土-日本の視点-
二宮書店
井上幸治
ヨーロッパ文明の原理 山川出版社
外山重治他
中国人名辞典 新人物往来社
豊田 武他
室町時代-その社会と文化- 吉川弘文館
舟木和夫
日本古代の政治と人物 同
大久保利謙他
史料による日本の歩み近世編 同
" 史料による日本の歩み近代編 同
関 見他
史料による日本の歩み古代編 同
安田元久他
史料による日本の歩み中世編 同

- 三橋富治男
オスマンニトルコ史論 同
森田鉄郎
ルネサンス期イタリア社会 同
今来梓郎
西洋史要説 同
鈴木 俊
東洋史要説 同
神谷次郎他
幕末維新史事典 新人物往来社
稲垣史生
時代考証事典 同
" 時代考証事典続 同
内山秀夫
150年目の福沢諭吉 有斐閣
若井忠雄
歴史と教育-その原点はなににか- 講談社
「角川日本地名大辞典」委員会 竹内理三
角川日本地名大辞典2 青森県 角川書店
梅崎忠夫他
日本大地図帳 平凡社
Lyons Stephen Michael
Conflict and Controversy 紀伊国屋

社会 科学

- 橋爪若子
オーストラリア入門 古今書院
シュルドン・S・ウェーリン
西歐政治思想史 I 政治哲学と政治の誕生 福村出版
西歐政治思想史 II キリスト教と政治思想 同
西歐政治思想史 III マキアヴェリとホブズ 同
橋井良幸他
BASICによる成積処理 培風館
建設省大田官房政策課他
厳しい選択 開発問題研究所
清水馨八郎
手の文化と足の文化 日本工業新聞社
庄司吉之助
福島の民俗と伝承 吉川弘文館
国際連合統計局
世界統計年鑑 1982 原書房
大坪 権
ブルーバックスB-631 技術者のための経
営学 講談社
中原勲平
ブルーバックスB-635 ビジネス・コンセ
プト入門 同

自 然 科学

- 西川鏡一他
岩波講座 情報科学19 最適化 岩波書店
高島文三
ブルーバックスB-621 見るミクロの探検 講談社
山科正平
ブルーバックスB-623 細胞を読む 同
朝永振一郎
朝永振一郎著作集 別巻3人と業績
みすず書房

武香利光
パソコングラフィクス 数学 オーム社
吉村忠与志
BASICによる化学ドライバ入門 共立出版
泉 美治他
化学のレポートと論文の書き方 化学同人
日本化学会
日本化学会総会記事 日本化学会
桜井邦明
太陽の誕生と死 講談社
広瀬立成
モノポール 同 学
渡辺慎介
ソリトン物理入門 培風館
平田琢男
パソコンによる物理計測入門 共立出版
五味和正他
演習線形代数と微分積分 培風館
菅江誠夫他
微分積分学 同
石桑光雄
演習物理学 上巻・下巻 同
林 謙次郎他
セミミクロ 無機定性分析 東京化学社
日本国際地化学会
地化学用語辞典 技報堂
長尾 昌
岩波講座 情報科学21 パターン認識と
図形処理 岩波書店
金原孝郎
電磁気学(II) 裳華房
平野克比古
物理化学ノート 研成社
日本分析化学会北海道支部
増補 新版分析化学実験 化学同人
前田 坦
ブルーバックスB-630 生物は磁気を感じ
るか 講談社
当麻喜弘他
岩波講座 情報科学13 順序機械 岩波書店
電子通信学会編
聴覚と音声 電子通信学会
F・ゴレス・アシュースト
ブルーバックスB-632 10人の大数学者 講談社
近藤宗平
ブルーバックスB-634 人は放射線になぜ
弱いかな 同 学
中原勲平
ブルーバックスB-635 ビジネス・コンセ
プト入門 同 学
宇井信生他
生化学辞典 東京化学同人
日本化学会
化学実験と教育のためのコンピュータガイ
ド 丸善
林知己夫他
数量化学論とデータ処理 朝倉書店
杉山高一
多変量データ解析入門 同
原 聡二他
クロマトグラフィー分離システム-考え方
及び方 丸善
日本分析化学会関東支部
高遠液体クロマトグラフィーハンドブック 丸善
鈴木義一郎
データ解析術 実教出版
" " 同
統計解析術 同
D. Betteridge 他
機器分析化学の基礎 丸善

C. Itzykson & J. B. Zuber
Quantum Field Theory
Mc Graw-Hill
P. Sandra
Sample Introduction in Capillary
Gas Chromatography vol.1 Huethig

工 学

齊田和男
層状地の土砂災害 古今書院
デジタルリサーチジャパン
コンカレントCP/Mユーザガイド
マドロウヒル
日本機械学会
第63期全国大会講演会講演概要集
日本機械学会
Andrew S. Glassnet
図説コンピュータグラフィックス
アスキー出版局
安国院 猛他
パソコングラフィックス入門 オーム社
大路清嗣
破壊強度学 同
ASM 86 アセンブリ言語リファレンスマニ
アル CQ出版
カーク・C・E・ギー
ローカルエリアネットワーク 啓学出版
鈴木文彦
98 FAN Books 2 98 マシン語 技術評論社
井出裕己
図解マイクロコンピュータ 8086 アセン
ブルプログラミング入門 オーム社
吉田 巖
機のはなし1 技報堂
高沢才哉
表面研削仕上げ術集成 日経技術図書
地下構造物ハンドブック編纂委員会
計画設計施工維持管理のための地下構造物
ハンドブック 建設産業調査会
産業公害防止協会
公害防止管理者国家試験問題-正解とヒン
ト-10回~14回 産業公害防止協会
編 英世
パソコン通信入門 講談社
栗野幸徳
アモルファス 同 学
田中四郎
パソコンによるグラフィックスとデザイン
一橋出版
日本電子機械工業会編
総合電子部品ハンドブック 電波新聞社
涌生良治他
抵抗コンデンサの使い方 CQ出版
中野信隆
金属材料科学概説 コロナ社
角谷博孝他
98 ユーティリティ&内部ルーチン解析 技術評論社
J. L. ビーターズン
ベトリネット入門 共立出版
河内朝雄
98 グラフィックス入門 技術評論社
川村 清
PC-9801 U2/VF/VFM アセンブリ言語
プログラミング入門 ナツメ社
荒木 敏他
環境科学辞典 東京化学同人
坪川家恒他
現代測量子 2 写真測量 日本測量協会

西川兼雄他
エネルギー実験工学 理工学社
甲藤好郎他
伝熱学特論 豊登堂
柳澤一郎他
伝熱研究における温度測定法 同
産業技術会議
未来高度情報システム 産業技術会議
堂山昌男他
材料テクノロジー18 機能性金属材料
東京大学出版会
日本国学会コンピュータグラフィックス委員会編
コンピュータによる自動図システム
日刊工業新聞社
杉田 稔他
パソコンによる機械設計計画法 同
桜井忠三他
パソコンを活用した機械要素設計 同
塩田泰仁
実践メカトロニクス マイコン制御
産業図書
吉川和光
実践メカトロニクス アクチュエータ
同
仙田良二
実践メカトロニクス 油圧空気圧 同
日本機械学会
技術資料 流体計測法 日本機械学会
坪谷大三他
チャレンジアイデア工夫
1. 木で作る工夫 光明協会
2. 紙で作る工夫 同
澤 六夫他
3. 電気で動かす工夫 同
刈谷少年発明クラブ
4. トランジスタ回路を使った工夫 同
金平 隆
5. パソコンを使った工夫 同
山本 実
6. ほくと私の作品集 同
藤 たかし
最新リニヤIC規格表 CQ出版
山田茂宏
最新OPアンプ規格表 PART-I モノ
リック編 同
トランジスタ技術編
最新トランジスタ互換表 同
城戸健一
2チャンネルFFTアナライザ活用マニ
アルII 日本プラントメカニクス協会
安達宏司他
無機化学者試験問題の徹底研究
東京電機大学出版局
松原孝之
改訂版 " " 本試験編・予備編 同
黄菊 賢
情報数学 コロナ社
岡本敏雄
ブルーバックスB-628 BASICプログラ
ム入門 講談社
応用機械工学編集部
機械要素設計ガイドブック 大河出版
太平洋工業K K
制御用マイコン応用事例集
日刊工業新聞社
堀川 明
ランダム変動の解析 共立出版
神谷紀生他
境界要素法による計算力 丸北出版
栗川均明
LISP入門 培風館

